

ホーム名：グループホームはーとふる東住吉 1階					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の話し合いにより作成した基本理念を共有し、実践につなげていけるよう努めている。	『共に手を取り合い、誰もが豊かな心で自分らしく過ごせる「わが家」を目指します。』が理念である。入居者の生活を主体とした押し付けない支援を心掛けている。入職時に理念の説明をし、共有を図っている。	理念は玄関入口やフロア内の目につく場所に提示されている。家族の様に暮らせる「わが家」を目指して、職員も豊かな心で毎日の支援を願いたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の近隣への散歩や2週間に1度のふれあい喫茶、地域の催しへの参加を実施しており、定期的に運営推進会議を開催することで地域とのつながりを持っている。	自治会に加入し、地域の夏まつりやふれあい喫茶への参加、また小学校や保育園との交流を持っている。ボランティアによる盆踊りや音楽演奏会などの訪問もある。	散歩や地域の行事を通じて地域との交流に努力している様子が伺えた。近隣の方々が気楽に立ち寄れるような事業所となるよう、今後も交流に努められたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト連絡会において地域の認知症サポーター養成講座の講師を務めるなどして、地域の認知症の人やその家族の支援を実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてサービスの実施状況や取り組み内容等の報告や、構成員との意見交換を通じてその内容をサービスに活かすことができている。	矢田地域包括支援センター職員・民生委員・地域の住民の出席で、現況報告・日常生活の様子報告・ヒヤリハット・事故の報告・行事報告等がなされている。併設の小規模多機能ホームと合同での会議である。	家族の出席に努力されたい。「介護相談員」の受け入れを検討され、会議の構成員拡大に繋がりたい。司会と書記は分担が望ましい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	不明な事柄や困難事例等あれば市区担当者へ相談し、助言や協力を得られている。	市との関わりは手続きに関する事が主であり、福祉課（成年後見の市長申立て）、生活保護課（生活支援）、介護保険課（郵送による手続き代行）と確認や相談をしている。	介護職員が不足の今、現状を訴え少しでも事業所の力となって頂けるよう市にも協力をお願いしたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	施設の方針として身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。ご利用者の意向や思いを受け入れることで精神面の安定化を図り、抑制や施錠等の拘束行為を必要としない状態を作れるよう取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを理解し、実践している。玄関、フロア出入り口とも施錠はしていない。	今後も身体拘束をしないケアを正しく理解し、身体も心も拘束しないケアの実践に努めていきたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を通じて高齢者虐待についての理解を深め、職員が虐待防止に関する理解ができるよう努めている。日々の業務においても虐待を防止できるよう心がけている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護の制度の利用を必要と判断した場合は、市長申し立てにより成年後見制度の利用につなげ、権利擁護の支援を実施している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時にご利用者、ご家族へ重要事項を説明し、同意を得たうえで契約を締結している。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族等とも定期的に連絡をとり合い、意見や要望を伺う機会を設けており、苦情等の相談窓口機関の案内も玄関に掲示している。</p>	<p>家族と連絡を密に取る事を心掛けており、ホームへの来訪も常に呼びかけている。家族との関係作りに努め、連絡時や来訪時に意見や要望等伺っている。</p>	<p>各家族には写真掲載入りの「ご利用状況報告書」を送付し、体調や状況報告を行っている。良好な関係を築きながら、今後もホームへの意見や要望を出し易い環境作りに努められたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>定期的な職員会議により職員からの意見や提案を出せる場を設けている。また、それらを業務に反映させるよう努めている。</p>	<p>施設長は職員が自発的に行動してくれる事を望んでおり、職員もその期待に応えている。個別外出の取り組みや普段のレクリエーションで職員の力が発揮されている。</p>	<p>職員が自発的に物事に取り組む姿勢は活気をもたらし、ホーム全体が活き活きとなる。今後も意見や提案を反映させながら、支援の充実に繋げられたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員が働きやすく、意欲をもって業務に取り組めるような職場環境を目指し、代表者を中心に処遇改善等の職場環境の整備に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的なカンファレンスや申し送りの機会に、管理者、計画作成担当者、介護スタッフが一丸となってケアの方法等を考えている。また職員は順次、認知症介護実践者研修の受講をすすめている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>主に施設長が東住吉区グループホーム・小規模多機能連絡会に参加している。職員も施設見学会や交流会等により定期的に他事業所との情報交換や交流の機会をもつ事ができている。</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面談やアセスメント、前担当者からの情報提供によりご利用者の意向や状況を確認し、良いケアに活かせるように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面談等によりご家族の意向も十分に把握し、要望等に耳を傾けご家族との信頼関係も築く事ができるよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>計画作成者によるアセスメントを中心にご利用者がグループホームでの生活を穏やかに送るために必要な援助を見極め、十分に必要なサービスを提供できるように努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご利用者の能力の把握に努め、自身でできることやその役割を持つことにより共同生活を営む者としての関係を築いている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>日常生活状況を「ご利用状況報告書」という形で毎月1度ご家族へ送付し、情報の共有を図っている。そのうえで新たな課題に対しご家族の意見や協力も得ながらご利用者へのケアを共に検討している。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご利用者の生活歴や嗜好等を把握し、可能な範囲で馴染みの場所や人との関係を活かしたケアを実践できるように努めている。</p>	<p>以前の生活圏にある喫茶店に、海のある地での暮らしを思い出させる南港へ、また甲子園球場へと個別外出で懐かしの場所へ出かけている。</p>	<p>選挙の投票にも出かけている。これまでの生活を断ち切ることが無いよう、今後も出来る限りの支援の継続をお願いする。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ご利用者同士の関係を把握できしており、日常的に職員が共に関わりながらご利用者同士の交流を支援している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後のご利用者やご家族からの相談にも対応し、可能な限りの対応、支援を行っている</p>		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日々の関わりの中でご利用者の課題や意向等の把握最大限努め、ご本人を中心としたケアを検討し実践できるように心がけている。	思いを引き出す、またコミュニケーションを大事にする。更にそこから言葉や思いを広げていく、というように努力をしている。	入居者の意向に副った暮らしが出来るよう、一人ひとりの思いを汲み取る事に今後も努力されたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご家族や前担当者、関係者等からの情報収集により、これまでの生活歴やサービス利用の状況等を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の自立した生活を継続できるように自立支援の視点をもってケアを実施している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族、関係者との話し合いの機会をつくり、情報交換をしながらそれぞれの意見やアイデアをサービス計画に反映させている。	どのような生活を望むか本人の目線に立ち、計画を立てている。家族の要望を交え、医療ニーズのある人は医師の意見も聞きながらサービス担当者会議で話し合い作成している。介護計画は6カ月毎に見直している。	“どの職員も目的意識を持って介護計画の共有を図り、目標に向かい努力する事が今後の課題”と施設長は考えておられ、誰にでも解かる様な「ケア表」を考えている。いつまでも豊かな心で自分らしく過ごせるように、入居者それぞれに即した介護計画で、毎日の生活を支えていって頂きたい。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の状況を把握し、その情報を生活記録に記入している。毎日の申し送りの中でも情報の共有に努め、ケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者それぞれの生活スタイルに合わせて柔軟にサービス提供できるように取り組んでいる。定期的に図書館やふれあい喫茶などにも出かけ、ニーズに合わせて介護サービス以外の社会資源も利用している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し等へも参加しながら地域との触れ合いの機会をもち、地域の中での暮らしを楽しむ事ができるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時の付き添いや通院時の同行介助により、医療機関とも密に連携をとる事ができており、ご利用者は適切な医療を受ける事ができている。	従来のかかりつけ医を受診している入居者は1名で、他の人は提携医療機関の往診を月2回受けている。その他、口腔衛生に関しては歯科医(隔週)と歯科衛生士(毎週)の往診を受けている。	看護師は週2回午前9時半から12時30分まで、バイタルチェックや爪切り、処遇相談等を担当し、入居者は医療面・安全面で不安なく過ごせている。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師が定期的に健康状態の把握に努め、適切な助言や受診の指示、またはケアの内容を職員と共に検討することでご利用者は必要な医療を受ける事ができている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には病院への情報提供を実施し、情報交換や相談等の連携も行いながら退院時の調整等も実施できている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期に関する指針を策定し、ご利用者、ご家族へ説明している。また、ご利用者、ご家族の意向を尊重し、事業所として可能な限りの支援をできるように各関係者との連携をとりながら適切な援助を実施できるように努めている。</p>	<p>重要事項説明書に「重度化・終末期の対応における指針」を策定しているが、それとは別に重度化対応としての「延命治療についてのお伺い」と、容態急変時における対応の「意思確認書」を作成して取り組んでいる。</p>	<p>現在、終末期の入居者がいるが、提携医の往診や、訪問看護による疼痛管理等の指導を受けながら連携して支援に取り組んでいる。今後は職員研修にも努め、安らかな終末期ケアが提供出来るように期待している。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時等に関するマニュアルを整備し、事故発生時等に備えている。また、各ご利用者の緊急連絡先を確保し、緊急時の連絡体制を整備している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時等の対応に関するマニュアルを整備し、災害時等に備えている。また、年2回の消防訓練においても避難誘導の方法を中心に訓練を実施している。</p>	<p>昨年8月に、夜間を想定した避難誘導訓練を行い、入居者全員の避難誘導に要する時間を確認した。2階の歩行困難者は、ベランダに避難することになっている。次回の訓練は2月に予定している。</p>	<p>備蓄品はカップラーメンや飲料水、ガスコンロ、ラジオ、ライト等、最低限は揃えている。又各フロアに消火器を設置して万一の火災に備えているが、全ての職員が不意の出火に対応出来るよう、訓練に参加し習得して欲しい。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>ご利用者の人格を尊重し、プライバシーやプライドを損ねないような言葉使いに配慮しながら関わりを持っている。入浴時等は可能な範囲で同性介助で対応するようにしている。</p>	<p>入退室や身体介助の際は、特に人格を尊重しプライバシーに配慮した対応を心掛けている。職員により言葉遣いが気になる時は、気付いた時にその都度指導している。</p>	<p>動作を促す時「やって」は、命令口調に聞こえるので「やりましょう」と言うように指導している。これからもコミュニケーションの取り方に適切な指導を願いたい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>ご利用者が自己決定できるように必要な援助を行い、ご本人の意向や思いを尊重した支援を心がけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員は毎日ご利用者とゆっくりと会話できる時間を設け、意向や気持ちを確認しながらその日の過ごし方を決定している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>その人が好む衣服を職員と一緒に選び、自分らしい身なりで過ごせるように必要な援助を行っている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご利用者と職員が協力して食事の準備や片付けを行っている。週に1度はご利用者の嗜好に合わせてメニューを変更し、美味しい物を食べながら食事の時間を楽しめるよう心がけている。</p>	<p>メニューと食材は業者から届くが、差し替えメニューが30種程度あり、入居者の要望を取り入れて週に1回程度は変更している。又食器洗いや野菜切り、味見係とその人の力に応じた役割を持って協力している。</p>	<p>家族や知人と一緒に外食に出掛ける人もいる。手作り餃子やバーベキューをして喜ばれているが、これからも食事の時間を楽しめるような支援を継続して頂きたい。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスの良い食事の提供ができている。水分摂取も随時促しながら脱水の予防にも努めている。体調等にも配慮し、食事時間ずらしたりと食事摂取がし易い支援を心がけている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後には声かけや必要な介助を実施し口腔ケアを援助している。また、定期的に歯科医、歯科衛生士による口腔ケアも実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>可能な限りトイレでの排泄ができるように排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導等の必要な介助を実施している。</p>	<p>排泄は、自立の人と介助の必要な人が半々位の割合である。生活記録により、各人の排泄パターンを把握して声掛けをし、タイミングを見て誘導している。</p>	<p>身体が不自由になっても、「トイレで排泄したい」という願望は誰もが持っている。オムツを外すことは、自尊心の回復や生きる意欲の向上に繋がる。排泄の自立支援に向けた取り組みに期待している。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>身体を動かす機会を多くつくり、水分摂取の促し、毎日の運動を続けることで便秘を予防できるように努めている。便秘時には医療機関の指示に基づいて対応している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>ご利用者の意向や健康状態に合わせ、一人ひとりが気持ちよく入浴できるように必要な援助を行っている。入浴の時間もご利用者の希望を考慮し、柔軟に対応している。</p>	<p>健康状態を見て、日中の好みの時間に週2回以上入浴している。湯替えは毎回行い、清潔を心掛けている。又季節感のある柚子湯や菖蒲湯等、入浴を楽しめる工夫も出来ている。</p>	<p>重介護の人は、浴槽の中で座位を安定させるように補助具を使用して、2人介助で支援している。重度化に対応して、簡易なリフトを取り入れる等、職員にも負担のかからないような工夫が望まれる。</p>

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者は自分のペースで無理なく休息をとりながら日常生活を過ごす事ができている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬内容を確認し、用法に基づいて服用できるように援助している。また、服薬による状態の変化等の有無を確認し、必要時には医師及びご家族に報告している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者それぞれに合った役割や過ごし方を検討し、毎日の散歩やドライブ、制作活動、趣味活動等、ご利用者それぞれが明るい気持ちをもって過ごせるように支援している。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日、散歩やドライブなどの外出の機会を設け、活動的な生活を送れるよう心がけている。個別の外出援助も実施しており、甲子園や入居前の自宅、長居公園のイベントなど、ご利用者の意向に基づいて個別の外出援助を実施している。	寒い季節の日常的な外出は、近所の日当りのよい好きなコースを15分から20分位散策し、又車でのドライブは30分から1時間位、長居公園等を回り気分転換を図っている。	個別支援としては、甲子園での野球観戦やATC、スーパー銭湯等に出掛けている。実費負担は多少あるが、本人の希望に応じて職員が同行し、行きたい所に行けるような支援が来ている。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者それぞれのご家族と相談した上で必要な方はご自分で金銭の管理をしており、必要時には職員と一緒に買い物に出かけている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご利用者の希望により電話を随時使用できるようにしている。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔感のある居心地の良い空間を作れるように努め、室温調整もこまめに実施しながら過ごしやすい環境を保てるよう心がけている。	玄関や廊下、居間は広々として明るく快適である。壁面にはイベントの時の入居者の笑顔の写真と、書道や切り絵の作品が展示してある。正面には手作りカレンダーと食事メニューが貼っており、何度でも今日の情報を確認することが出来るようにしている。	居間は職員が毎朝クリーナーで清掃し、昼にはモップかけ、トイレは朝夕2回と汚染の都度掃除をし、清潔な環境を維持している。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者それぞれが過ごしやすく自分の居場所と感じられる環境づくりに努めている。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご利用者自身の使い慣れた家具や好みの物を置くなどして穏やかに過ごせるように配慮して居室環境を整えている。	居室には洗面所とベッドが備え付けてあり、仏壇や洋服ケース、机、コタツ、テレビ等を置いて自宅のように寛いで過ごしている。居室の入口にはバイオリンや馬、映画スターの写真等、好みの目印と氏名が表示してある。	週1回は居室の掃除を徹底して行い、その時にシーツ交換もしている。随時も含めて週1回から3回はシーツ交換をして清潔を保っている。継続を願う。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で移動や活動のしやすい環境づくりができている。		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない